

TAKE
FREE

セイ セキ

Z
I
N
E

聖蹟人



People Guide in Saiseki-Sakuragaoka

#0

創刊準備号

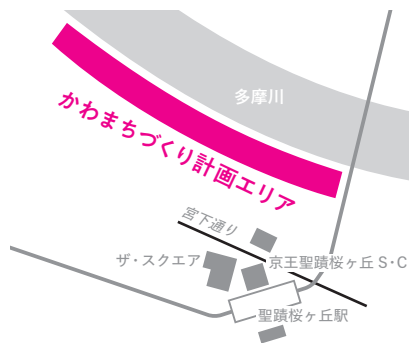
くらしに、いつもNEWを。
舞台は多摩川！

賑わいのある河川空間で
誰とどんなNEWしましょ？

聖蹟桜ヶ丘かわまちづくり、

社会実験 開始！

居心地のよい水辺づくりを目指して。こんなテーマのもと、2022年10月5日から11月27日まで、聖蹟桜ヶ丘多摩川河川敷（一ノ宮公園）で河川敷のルールづくりや、新たに整備する空間の使い方を検証する「社会実験」を開催。河川敷を活用したさまざまなプログラムの中から、ここでは5つをレポート。



リバー SUP

多摩エリアを中心に活躍するリバー SUP ガイド・平良尚裕さんによる指導のもと、リバー SUP（スタンド・アップ・パドルボート）体験。参加者の皆さんは初心者ながら10分ほどでパドルを上手に使いこなして水面をスイスイ。河川敷を散歩する人たちも興味津々のご様子でした。



焚き火体験

京王アートマン 聖蹟桜ヶ丘店のスタッフによる指導のもと、麻ひもをほどき、ファイヤースターターで着火する本格派の焚き火体験に。薪に火がつくと、「すご〜い！」と参加者の皆さん。焚き火デザートの定番・マシュマロを焼きはじめると、子供たちの笑顔が広がりました。





青空ワークショップ

キッチンカーでテイクアウトしたランチを楽しみながら、青空の下で多摩川河川敷の活用についてワークショップを実施。当日は有志で集まった皆さんが5つのグループに分かれ、「水辺でナニしたい？」をテーマに議論。多摩市長・阿部裕行さんも参加しました。



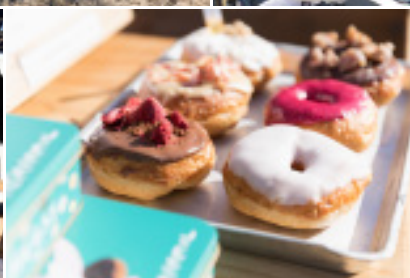
アウトドアオフィス

開放感と遊び心のあるオフィスとして、いま密かに注目を集めているアウトドアオフィス。多摩川河川敷という絶好のロケーションにテントを立て、電源も確保。パソコンを持参して仕事をする人、宿題をする学生さんなど、みな思い思いの時間を過ごしていました。



水辺でマルシェ

最終日、出店者公募型の「水辺でマルシェ」を開催。聖蹟桜ヶ丘エリアの飲食店が集い、多摩中学校が取り組む「聖蹟ハニー」を使った KAO ハニーマルシェも登場。リバーサイドヨガ、宝探し大会、多摩中学校吹奏楽部による演奏など、会場には多くの地域の皆さまが詰めかけました。



聖蹟桜ヶ丘かわまちづくり計画、 本格始動！

さて、これから

どんな取り組みを？

“地域の資源をみんなで活かす”という想いのもと、多摩市と「聖蹟桜ヶ丘かわまちづくり協議会」(註1)が主催し、聖蹟桜ヶ丘エリアの多摩川河川敷の“新たな活用”に向けた取り組みを本格スタート。同協議会メンバーの事業者のひとつ、京王電鉄の担当者と、事務局の多摩市行政管理課の二人に「聖蹟桜ヶ丘かわまちづくり計画」(註2)のこれからについてリッスン！

宮原「聖蹟桜ヶ丘は京王電鉄にとって特別なエリアです。地域の皆さんの暮らしに寄り添う駅直結のショッピングセンターがあり、多摩地域のバス網のターミナルも運営。駅前には本社もあります。聖蹟桜ヶ丘の街の歴史とともに京王グループの歩みがあるんです。2022年秋には『プリリア聖蹟桜ヶ丘』(註3)の入居がスタートし、多摩川に隣接す

る駅の北側エリアの盛り上がりにも期待感が高まっています。その呼び水のひとつとして、地元の自治会や団体、商店会と連携して、かわまちづくりの検討が進んでいて。いち事業者として、つい足を運びたくなる“みんなの多摩川”の多様な過ごし方をこれからさまざまな形で提案していけたら嬉しいです」

志波「2022年10月から2ヵ月に亘って実施した『社会実験』(P2～P3)も、その取り組みのひとつでしたね。

多摩市としても近隣地域に住む多くの皆さんに聖蹟桜ヶ丘駅から徒歩数分の距離にある多摩川河川敷を今以上に、楽しみながら利用してほしいと思っています。言葉を変えるなら、水辺のある豊かな日常づくり。聖蹟桜ヶ丘愛を語る話題のひとつとして、多摩川という存在を身近に感じてもらえたらなあと思っています」



京王電鉄
聖蹟桜ヶ丘プロジェクトチーム
宮原優人



多摩市
行政管理課
那須楓



多摩市
行政管理課
志波純平

那須「多摩市の中で川が身近にある駅は聖蹟桜ヶ丘だけですね。私も二人と気持ちは一緒に、多摩川のポテンシャルの高さをより多くの方に感じてもらえたら嬉しいです。くらしに、いつも NEW を。(註4) 多摩市にはこんなスローガンがあるんですが、多摩市に住む全ての世代の方に、継続的な河川敷の利用を通して“聖蹟桜ヶ丘愛”“多摩川愛”を醸成してもらえたらなあと思っています。今回実施した社会実験もそうですが、古くから住んでいる皆さんにも新しくこのエリアに住み始める皆さんにも、等しく、ずっと住み続けられる街であってほしいと思っています」

宮原「かわまちづくりをきっかけに、地域の方々がそれぞれの形でこの街に関わり、聖蹟桜ヶ丘を今よりもっと好きになり、街歩きそのものを楽しみ、聖蹟桜ヶ丘愛を語ってもらえたら嬉しいです。もちろん僕もその主人公のひとりになりたいです」

志波「世代を問わず、みんなが主役になれる街。こういう想いにこそ、これから目指すべき聖蹟桜ヶ丘の姿がある気がします」

那須「くらしに、いつも NEW を。温故知新の精神を忘れず、“さあみんなで知恵を寄せ合いましょう”ですね」

京王聖蹟桜ヶ丘 SC (愛称:「せいせき」) の 地域連携した取り組み 3THINGS!

今回紹介するのは…

京王電鉄 SC 営業部
井手ひかる



東京ヴェルディとともに。

多摩市を活動拠点とするプロサッカークラブ・東京ヴェルディと、サッカー教室やインクルーシブスポーツ教室、eスポーツおしごと体験など、地域の方々と交流の機会を作るためにさまざまなイベントを開催しているんです。実は、2019年から東京ヴェルディのホームタウンパートナーになっています！



おさんぼ MAP づくり。

せいせき近隣の小学校に通うお子様たちに、聖蹟桜ヶ丘の街の見どころ紹介作品を制作いただき、せいせきのアウラホールで展示をしました。その展示物をもとにおさんぼ MAP を作成し、スタンプラリーをしながら、街の魅力を発見できる企画を実施しました。大人では気づかないような場所が沢山あり、とても見ごたえのある素敵なマップに仕上がりました！(※現在、おさんぼ MAP の展開は終了しています)



地元のお店とマルシェ。

せいせきでは季節に合わせて定期的に、聖蹟桜ヶ丘の地元のお店やせいせき館内のお店にお声がけし、「せいせきツナガルマルシェ」を開催しています。地元のお店とつながるマルシェは毎回、大好評なんです。B館2階センターコートでお待ちしています！



せいせき
京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンター

註1 聖蹟桜ヶ丘かわまちづくり協議会

多摩川河川敷周辺の資源を活用し、地域住民や就業者、来街者の安心・安全を確保するとともに、川のある豊かな日常を実現し、駅周辺を含む聖蹟桜ヶ丘のまちの魅力を高めていくことを目的とし、2022年8月に設立。

註2 聖蹟桜ヶ丘かわまちづくり計画

“地域の資源をみんなで活かす”をテーマとした、国土交通省が主導する「かわまちづくり支援制度」。地域の「顔」や「誇り」となる水辺空間の形成を目指し、2020年3月、多摩市も「聖蹟桜ヶ丘かわまちづくり計画」を登録。

註3 ブリリア聖蹟桜ヶ丘

多摩川に隣接する新築分譲マンション。タワー棟は33階建(520戸・2022年9月竣工済)、テラス棟は17階建(253戸・2025年1月下旬入居開始予定)。2023年、商業棟「サクテラスモール」開業予定。

註4 くらしに、いつも NEW を。

50周年を機に、さらに「フロンティアスピリット」を強く発揮し、すべての人が持続可能に暮らせる未来の都市づくりを進めていくという思いを込めて創出した多摩市のブランドビジョン。

全ての世代が 足を運びたいと思える 多摩川に。

多摩市関戸自治会
会長 中村洋一

旧 鎌倉街道沿いにかつて関所があったことから、関戸地区には、歴史の息吹を感じる昔ながらの風景が多く残され、今なお豊かな地域文化が育まれている地区でもあります。

現在、関戸自治会には約1900世帯が入会し、私たち自治会では日々、地

域住人の皆さんが安心・安全に毎日を過ごせるように、多くの課題を拾いあげ、地域の環境改善のために知恵を寄せ合っています。2022年秋にはブリリア聖蹟桜ヶ丘の入居が始まり、新たに520世帯の方々が関戸自治会に加入される予定です。そして今、多摩市や周辺事業者とともに「聖蹟桜ヶ丘かわまちづくり計画」に参加し、多摩川河川敷の有効利用について意見交換会を実施しています。

本で行われている社会実験のひとつ「水辺でマルシェ」(2022年11月27日開催)には多くのファミリー層が集い、いつも静かな河川敷に賑わいが生まれ、その様子を見るにつけ、今後の取り組みに期待しています。他方、少しだけ残念なのは、社会実験の周知が充分にできていなかったようで、私と同じような世代の高齢者の姿が少ないことです。地域住人皆さんの充実した暮らしを願

う関戸自治会としては、お年寄りにもこのような街ぐるみのイベントに多く足を運んでもらいたいと思っています。

現在、関戸自治会では地域の結びつきを深めるために、近隣の住人同士で回覧板を回しています。電子機器を介したコミュニケーションが多い現代では、近所付き合いが希薄な傾向にあると聞きますが、回覧板を回しあうことで、一人暮らしの高齢者の安否確認や住人同士の見守りに繋がったと思っています。「聖蹟桜ヶ丘かわまちづくり計画」により、河川敷が多くの方の散歩コースになり、全ての世代が足を運びたいと思える場所になったらと願っています。

関戸在住47年。教員時代、都立高校の教頭(2校)、校長(2校)を歴任。保護司歴18年。関戸自治会会長として12年間に亘って地域の安心安全に尽力。

ゆるく楽しく 多摩川と遊びたい

多摩市若者会議
実行委員 加藤利樹・伊藤千夏

加藤「やりたいことの旗をあげて、若い力で街をゆらそう。こんな想いを持ち、多摩市若者会議は活動しているよね」

伊藤「若者・子育て世代と地域をつなぐカフェ&街づくり交流拠点『未知カフェ』(関戸6丁目)の運営もそうだし、カプセル販売機(1回500円)を回すと聖蹟桜ヶ丘駅周辺にある飲食店の割引クーポンがもらえる『たまころりんプロジェクト』もそう。多摩若者会議メンバーには地域の活動に携わりたい、多摩市を盛り上げたいと本気で考えているメンバーがたくさんいて。みんな実行力もあるんですよ!」

加藤「その文脈で考えてみると、駅周辺を含むまちの魅力を高めるために多くのプレイヤーが携わる、水辺を活

用した『聖蹟桜ヶ丘かわまちづくり計画』に若者会議メンバーも興味津々。僕らも多摩市と連携しながらプロジェクトを進めていくことが多いので、これからどんな風に“居心地のいい水辺づくり”を目指していくのか、多摩市LOVEな視点で多摩川での多様な過ごし方の提案ができれば嬉しいね」

伊藤「地域の顔、誇りになるような水辺空間づくりって、どんなことができますかね?」

加藤「関戸にある小山商店で日本酒を買い揃え、交通公園の下の広場に集まって日本酒を飲むイベントを主催したことがあるんだけど、多摩川から見える夕日がとてもキレイで、川の風も心地よかった。多摩川河川敷ってみんなが集まるのにちょうどいいんだよね」

伊藤「のどかな雰囲気、河川敷は私も好き。京王多摩川のほうで友達とピクニックしたい。河川敷を利用したキャンプイベントとかできないかな?多摩市にはキャンプ場らしいキャンプ場が

ないから。ハンモックをいっぱい並べて気軽に楽しみたい」

加藤「それでいうと、個人的にはテントサウナをやってみたいな。ところで多摩川って市民が勝手に入ってもいいのかな?」

伊藤「どうなのでしょう。そういうルールみたいなものも、きちんと明文化してもらいたいな」

加藤「僕らができること、きちんと考えたいね。ゆるく楽しく多摩川と遊びたいな」

多摩市を若者・子育て世代にとって魅力的な街にするため、コトづくりをさまざまな実践する「多摩市若者会議」。加藤さん(1994年生まれ。永山在住。今春、大学院を卒業し社会人)と伊藤さん(2002年生まれ。永山在住。大学2年生)はその中心メンバー。

一人ひとりの楽しみを 多摩川で 発見してほしい。

多摩市一ノ宮自治会
会長 山村一生

生 まれも育ちも多摩市一ノ宮の私にとって、多摩川は小さな頃から身近な遊び場でした。多摩川で遊び始めた1960年代のはじめの頃は、今とは違って河川敷は整備されておらず、水量も多く、夏には川で泳ぐのは当たり前。幼かった私は、大きな石の下に隠れている魚を捕るために上から石をぶつけ、振動で浮き上がってきた魚を手づかみし、家に持ち帰って親に佃煮や乾物にしてもらうのが日常のひとつコマでした。

当時は聖蹟桜ヶ丘の駅周辺も閑散としていて、駅の北側には水田が広がっ

ているようなイメージで、桜ヶ丘住宅地の分譲が始まった頃から徐々に駅前整備が始まりました。その後、1980年代中頃に駅前にショッピングセンターが開業し、京王グループによってバスターミナルも整備。皆さんがご存じのような聖蹟桜ヶ丘の”現在の賑わい”に繋がっていきます。

時計の針は進み、郊外型のライフスタイルが定着した今、古くから培われてきた地域の歴史や文化、地域の顔ともいえる多摩川河川敷の新たな価値づくりのために「聖蹟桜ヶ丘かわまちづくり計画」が始まりました。一ノ宮自治会もこの計画に携わり、多摩市や周辺事業者とともに“地域の資源をみんなで活かす”仕組みづくりを目指し、意見交換している最中にあります。

私個人としていま思っているのは、多摩川の自然（原風景）を残しながら、地域住人の皆さん一人ひとりがいろいろな楽しさを発見できるような”かわ

まちづくり”を進めてもらいたいなあということです。小野神社をはじめ、聖蹟桜ヶ丘エリアには歴史があります。過去に学びながら、新しい世代の方々には自らが主役になり、かつての私がつうであったように多摩川という舞台でできる遊びをそれぞれに見つけ、楽しんでもらいたいと願っています。

一ノ宮在住68年。聖蹟桜ヶ丘の街の歴史と共に青春時代を過ごす。一ノ宮自治会会長として4年間に亘って地域の活動に従事。

水辺でナニしたい？ 青空ワークショップを開催

やってみたいこと

アウトドアアクティビティのグッズの貸し出し

サイクリストが集える場づくり

河川敷を活用した学びの学校

商店街と連携したマルシェイベント

お泊まりキャンプ

予約なしで楽しめる河川敷での「火の使用」

実現に向け必要なこと

無理なく続けられる組織体制と実働部隊

河川敷で火を使うためのルールと管理法

企業の巻き込みと関わるメリットづくり

多くの人に周知してもらうためのPR機能

安心・安全を確保するための常駐者（人的リソース）

風通しのいい官民の連携と意見交換の場づくり

あるといいもの

子供が遊べる親子ゾーン

充電機能のあるソーラー外灯

屋外映画を楽しむスクリーンやプロジェクター

キッチンカーの出店

手洗いでできる水道

イベント用に少し整備されたレンタルスペース

心配なこと

公園を作りこみすぎると自然な感じなくなる

365日賑わいを作ることがムズかしい

賑わいと心地よい静けさのバランスをどう図るか

電気の確保。暗くなると撤収が大変

持続的な河川利用に向けたプレイヤーをどう見つけるか

河川空間でやっていたいいことダメなことが分かりにくい

セイセキ ZINE とは？

セイセキ ZINE (セイセキジン) は毎月1つのテーマを決め、聖蹟桜ヶ丘エリアと所縁のある「人の想い」にフィーチャーする、市民参加型ローカルマガジンです。創刊準備号のテーマは「#かわまちづくり」。創刊号(2023年春頃の予定)からは多摩市在住の有志の市民ライターを募り、セイセキ愛に満ちた誌面づくりをしていきます。

